

本会議一般質問にて激論65分。  
コロナ後に求められる  
政策転換とは？



群馬県議会リベラル群馬

# 後藤かつみ

## 今、県政が熱い。

コロナ、知事VS議会：  
かつてない緊張感

真に 是々非々 かつ 未来志向。  
リベラル群馬 政策提言。



### 2020年 第3回定例会報告

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
住所 高崎市八幡町 800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrqgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrqgoto.com/>  
<http://www.eaglesgoto.com/>  
(スマートフォン用)

# コロナ後の行政、産業は どう変わるべき？



## 行政

### あらゆる事業を「ゼロ」から 見直さなければならぬ

新型コロナウイルス発生により、イベント系を中心に多くの事業が中止となるとともに、事業のあり方を根本から問い直す貴重な機会となっております。

後藤は、一般質問において、今年中止となった「県民マラソン」を例として例外ではないと、あえて大胆な提言をしました。

その心は、たとえ当然のように長年継続している事業でも、

- そもそも県が行う目的は？
  - 県予算を注ぎ込む意義があるのか？
  - 他の方法で代替はできないのか？
- といった視点から事業根本を見直す絶好の機会ということなのです。

「県民マラソン」を例にとれば、今や全国にマラソン大会は2500あると言われていて、その中で群馬県のヒト・モノ・カネを使っている意義は何なのか？

という視点に立てば、単に「参加者が多ければ成功」ではダメで、「地域活性化」に繋がっているか？「競技力向上」に繋がっているか？「など、政策的な尺度も加えるべき」という議論になります。

財政の制約の中でも「コロナ後の新たな政策を打ち出さなければならぬ」今こそ、触れることすら「タブー」となっている事業も例外なく意義を問い直す必要に迫られています。

コロナの衝撃が、  
前例踏襲体質を改める  
いいきっかけとなる訳  
ですね。



ふむふむ

## 産業

### 観光政策の転換

### プロモーションから コンテンツづくりへ

インターネットの普及した現代、観光情報も雑誌等でも発信できるようになり、消費者も雑誌等の一方的な情報よりもネット上の「口コミ」情報を重視する時代になりました。

また、旅行ニーズも名所巡りツアーのような物見遊山型ではなく、個人のスタイルに合った体験型志向する傾向にあります。

結果、行政が広告宣伝費をかける「プロモーション型」の観光政策が効果を上げなくなる一方で、魅力的な観光コンテンツを生み出すことができれば、体験者の口コミが広がり、持続的に宣伝してくれるのです。

後藤は一般質問において、群馬の観光コンテンツとして「ぐっすりぐんま」を提案。温泉や食材を単に宣伝するのではなく、「睡眠」に関心の高い都会人をターゲットに「癒やし」の観光コンテンツとして商品化する(図)ことで、顧客が持続的に訪れかつ地域にお金が落ちる仕組みを作る。この政策転換の流れがコロナ後に加速していくと確信します。



ありふれた観光素材が、  
「睡眠」に悩む人々に鋭く刺さる  
観光商品に生まれ変わるね！



# 断行 or 熟議

## 県有施設見直し巡り 県議会 VS 知事 第1ラウンド

かつてなく活気を帯びる議会  
健全な緊張感がそこにある

今、県議会がかつてなく活気を帯びています。

山本知事が10月に打ち出した、県民会館をはじめとする県有施設の見直し方針は、中身もさることながら、**年度内に結論を出すという性急さ**で、これまでの県政の常識を覆す衝撃的なものでした(図)。

これに反応したのが、後藤が属する行財政改革特別委員会。見直し対象となった全施設を視察し、関係者からの意見聴取も実施。

そこには、「二元代表制」の一翼を担う議会として責任ある行動をとらねばならない。という危機感がありました(記事)。

一方、山本知事はいとうと、11月30日日本会議、自民党代表の星名健市氏の「関係者からの意見に耳を傾けて、時期にとらわれず慎重に進めるべき」との注文に対し、「反対意見を聞いていたら既存の事業は一つも見直せない」「山本県政に先送りは無い」と一蹴し、姿勢を変えようとはしません。

利用者数の減少や収支の赤字を理由に大胆なメスが...



|                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| 県民会館                 | → 県有施設としては廃止を検討              |
| 県総合スポーツセンター伊香保リンク    | → 収支の大幅改善を図る。不可能な場合は廃止も含めて検討 |
| ぐんまフラワーパーク           | → 民間移管などを検討                  |
| 敷島公園水泳場              | → 再整備を検討                     |
| 県立図書館                | → 再整備を検討                     |
| 県立妙義青少年自然の家          | → 廃止を検討                      |
| ぐんま総合情報センター(ぐんまちゃん家) | → 今契約期間中に方向性を検討              |
| 森林学習センター             | → 廃止を検討                      |
| 緑化センター               | → 廃止を検討                      |
| 県ライフル射撃場             | → 廃止を検討                      |

県有施設見直しの方向性 中間報告

### 県民会館「検討慎重に」

#### 県議会特別委が提言案

県有10施設の廃止を含めた在り方の見直し作業を巡り、県議会の行財政改革特別委員会は2日、県に対する提言案をまとめた。廃止が検討されているベイシア文化ホール(県民会館、前橋市)については、存続を求める県民世論の高まりを考慮し、「性急に結論は出さず、幅広く県民の意見を取り入れて慎重に検討すること」を求めた。提言内容を議会全体の意思として発信するため、開会中の定例会に決議案として発議し、本会議での議決を目指す。

### 県有施設見直し

#### 決議案として発議へ

12月3日上毛新聞記事抜粋

改革の方向性は理解。しかし、文化・スポーツ施設の価値は採算性だけでは測れない。役所側の縛りを無くし、工夫を凝らせば利用増や新たな活用方法も見出せるのでは。



後藤は、県有施設にメスを入れることで、コロナ禍の財政危機に臨もうとする山本知事の改革の方向性は支持しています。

一方で、長年施設を愛してきた利用者の声も聞かずに、「赤字だから切る」という姿勢は、民主主義としてあってはならないと考えます。

県議会の決議も、改革の必要性は認める一方で、収支では測れない県有施設の価値や県民の思いを踏まえ慎重な検討を求めるとともに、各施設について利用者増や観光など別の角度からの活用方法について言及する「対案」となっています。

山本知事の「断行」の姿勢に対し、県議会が「熟議」を求めブレーキを踏む。まさに、二元代表制らしい緊張感のある活発な議論が起きています。

# 真に是々非々 かつ未来志向

## リベラル群馬政策提言

12月14日に知事に提出。財政健全化を進め聖域なく事業にメスを入れる知事の姿勢を支持しつつ、身近な公共事業や社会的少数・弱者に寄り添う施策については拡充を要請。環境政策等について未来志向の提言も盛りだくさん。



代表質問に  
登壇します！  
2月24日(水)  
13時頃登壇予定  
群馬テレビで放映されます。